

學報

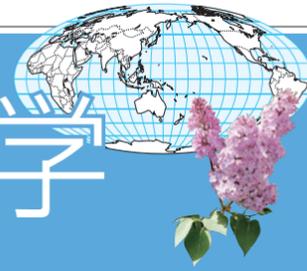
学校法人 北海学園

北海商科大学

商学部 [商学科・観光産業学科]

アジアの時代にアジアを学ぶ

Hokkai School of Commerce Newsletter



Vol.38

2025.6.13

発行:北海商科大学
編集:北海商科大学広報委員会
〒062-8607
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
地下鉄東豊線「学園前」駅直結
TEL:011-841-1161(代表)
FAX:011-841-0801
https://www.hokkai.ac.jp
制作:(株)ラポット

主な記事

- 2. 学部長挨拶 ————— 2面
- 3. 研究科長・学部長・センター長紹介 ——— 2面
- 4. 卒業式挙行 ————— 2面
- 5. 留学生修了式 ————— 2面
- 6. 入学者選抜結果概要 ————— 3面
- 7. 優秀学生表彰・新入生へ ————— 3面
- 8. サークルの活動紹介 ————— 3面
- 9. 就職状況について ————— 4面
- 10. 特集座談会「留学のことを聞きたい!」——— 4面
- 11. 交換留学生歓迎会・留学生紹介 ————— 5面
- 12. スンチョン大学校とのMOU、国際交流——— 5面
- 13. 留学だより ————— 5面
- 14. 「研究のいま」山田勅之教授 ————— 6面
- 15. 韓国語学習の広がり ————— 6面
- 16. OB・OG NOW! ————— 6面
- 17. 中国語スピーチコンテスト報告 ————— 7面
- 18. 高大連携～修学旅行対応型出前講義 —— 7面
- 19. ウェルズリー大学と韓国語交流講義 —— 7面
- 20. ゼミ訪問 池ノ上ゼミ ————— 7面
- 21. レスブリッジ滞日記 保坂先生 ————— 8面
- 22. 新任職員紹介 ————— 8面
- 23. 新刊紹介 ————— 8面
- 24. カウンセリングルーム ニュースレター12—— 8面
- 25. 行事予定 ————— 8面

25 交換留学生を迎え歓迎会開催!



学校法人 北海学園 北海商科大学
令和7年度 交換留学生 歓迎会

4月26日開催の令和7年度交換留学生歓迎会にて(関連記事5面)

令和7年度 入学式挙行

2025(令和7)年度入学式が4月3日木曜日、ホテル札幌ガーデンパレスにおいて、学部231名、商学研究科修士課程1名、博士後期課程1名の合わせた233名の新入生を迎え、保護者・ご来賓のみなさま、教職員列席のもと挙行されました。

堂徳学長の式辞に続いて新入生を代表して、池田莉子(酪農学園大学附属とわの森三愛高校)さんによる代表宣誓が行われました。

式場は本学の教育目標である「アジアの時代にアジアを学ぶ」を学ぼうとする志を持った新入生の晴れやかな息吹に溢れ、新たな門出を迎えるにふさわしい入学式でした。

(事務長 柴田 敬司)



入学者代表・池田莉子さんによる入学者宣誓 堂徳将人学長による式辞



令和7年度入学式

2025(令和7)年度 第49回入学式 学長式辞

新入生の皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。本日、大学院博士後期課程1名、修士課程1名、商学部231名、計233名の新入生を迎えられますことを教職員一同、大きな喜びとしております。また、保護者やご家族の皆さま、ご来賓の皆さま、関係の皆様とともに盛大な入学式を挙行できますことは、誠に感慨深く、意欲あふれる新入生を迎えられたことを心より嬉しく思います。

北海商科大学は、前進の北海学園北見大学から、2006年に現在の札幌豊平区に移転し、地下鉄に直結した恵まれた都市環境のもとに開学して20回目の入学式を迎えました。20歳は、人間に例えれば人生において、最も若さと躍動感に溢れる時期であろうと思います。その意味では、本学の新たな歴史は、この度入学された皆さんが、築き上げて行くものです。教職員一同も、所定の入学試験に見事に合格された皆さんとともに進取の気概をもって、独自の校風を築くことを楽しみにしております。

さて、今日は生成AIやIoT等をはじめとした技術革新が急激に進む一方、グローバル化の行き詰まりや、地球環境問題等の深刻な課題が指摘されるなど、まさに転換期の様相を呈しています。皆さんが選択した大学進学という先のステージには、社会の担い手としての長い人生が待っています。今後も続くと思われるVUCAの時代は、先行き不透明で予測困難なものであり、「よりよい社会の形成者となるための資質・能力」を身に付けることは容易ではありません。しかし、皆さんは中学から高校の3年間余りを新型コロナ禍において、我慢の多い生活を乗り切りました。そこでは「個別最適な学びと協働的な学び」に努め、しなやかさや逞しさを育まれたことでしょう。また、2022年の18歳成人への法令改正に伴い、皆さんは高校生から成人年齢に達したため、成人としての基礎的な資質を身に付けてこられたことでしょう。そうした皆さんが大学進学の良い機会を得ました。

もとより、大学は主体的・自律的に学び、人格形成に専心できる場です。皆さんには、ぜひ、この恵まれた時間と環境を活かされることを期待します。その期待は2つあります。まずは、「期待される学び」についてです。本学は、新しいアジアの時代を見据え、言語・文化・社会を基礎に、観光を含めた幅広いビジネス活動の基本となる知識を広く深く学ぶ教育を展開しています。そのため、本学では多彩なカリキュラムを用意するとともに、少人数教育を重視し、研究と教育を統合する人材育成プログラムを展開しています。皆さんには、自らに適合した学習プログラムを創造されることを期待します。

また、海外提携大学である中国の煙台大学と山東大学、韓国の大田大学校、カナダのレスブリッジ大学とは、積極的な交換留学や各種交流を長く実施するなど、国際的な人材育成に努めてきており、今後も一層の充実を図ります。さらに、昨年度からは「データサイエンス・AI論」を開講しましたので、DX社会の進展に応じて、AIやデータを活用するスキルを向上させて下さい。皆さんには「国際ビジネスと国際観光の分野でリーダーシップを発揮できる優れた人材の育成を目指す」という本学の使命を再認識して、強い信念をもって学習に励んでもらいたいと思います。

次に、「人格の形成」についてです。大学は高校までと違い、自分の行動を自分で律することが求められます。大学4年間で有意義な時間として将来につなげられるかは自分次第です。自由な時間に流されることなく、何をすべきかを考え、行動して欲しいと思います。とりわけ、高校までの履修主義からノングレードの習得主義へと日常生活が変化中、自ら進んで友を求め、新たな出会いと有為な体験を通じて、自己鍛錬の日々を過ごして欲しいと願っています。大学では、サークル活動をはじめ、様々な体験を通じて、社会と関わり、社会の形成者としての自覚を深めるでしょう。そのことは、意見や立場の異なる人々との協働を通じて、ウェルビーイングな未来を築くに必要不可欠な人間力を涵養させることなのでしょう。多くの出会いと協働の体験を通して、自律した人間性豊かな人格の形成に結びつけて欲しいと思います。

終わりに、本学の母体である北海学園の歴史は古く、創立は140年前に遡ります。現在、北海学園は、本学の他、北海学園大学、北海高校と北海学園札幌高校を設置し、1万余名の学生・生徒が日夜、勉学や課外活動に精を出しています。学園の卒業生は、道内はもとより、国内外で活躍しています。今日、皆さんは、北海学園の仲間として迎えられました。ぜひ、仲間入りの第一歩として、明日の登校から「おはよう」の挨拶からはじめませんか、本学の教職員は笑顔で応えて参ります。

皆さんには、今日の喜びを忘れず、明日への飛躍を確かなものとするよう、健康に留意し、精一杯努力することを期待して式辞といたします。

令和7年4月3日 北海商科大学 学長 堂徳 将人

令和7年度 学部長挨拶



商学部長 佐藤 千歳

フィクションの想像力が未来社会の姿を的確に予言することがあります。P・K・ディックによる米国のSF小説『アンドロイドは電気羊の夢を見るか』（1968年）は、科学技術の進歩の負の側面として地球環境の荒廃が進み、人間と人工人間（アンドロイド）が抗争する世界を描きました。小説では、人間がアンドロイドを「殺して」賞金を稼ぐストーリーが展開されると同時に、アンドロイドとの抗争を通じて人間が、感情や知性といった人間らしさとは何か、という問いに向き合う姿も示されています。

人工人間に象徴される他者との共存は、グローバル化の進展や科学技術の進歩によって現代社会では現実のものとなりました。学生と教職員を合わせて800人弱のコミュニティである本学でも、教育・研究の主要テーマとなっています。商学部は、現代社会の課題を掘り起こしながら、地域社会を形作る多様な人びとと協働し、解決の道を探る教育の実践を目指しております。上記の小説が描く通り、他者との共存・協働は容易な道ではありませんが、試行錯誤を重ねながら、学生と共に新たな人間像や社会像を発見していきたいと考えております。

研究科長・学部長・ センター長紹介

■大学院研究科長	佐藤 博樹	教授
■商学部長	佐藤 千歳	教授
■教務センター長	池ノ上 真一	教授
■学術発展センター長	水野 俊平	教授
■入試・広報センター長	三田村 保	教授
■キャリア支援センター長	伊藤 寛幸	教授
■学生支援センター長	村松 祐二	教授
■国際交流センター長	原子 智樹	教授

令和6年度 卒業証書・学位記 授与式挙行

2024(令和6)年度卒業証書・学位記授与式が3月18日（火）、例年同様、中島公園に隣接する札幌パークホテルにて挙行了いたしました。今年度は多くのご家族が見守るなか、商学部卒業生191名（商学科133名、観光産業学科58名）に卒業証書・学位記が授与され、新たな社会へと学窓を巣立ちました。堂徳将人学長の式辞、卒業証書・学位記の授与に続き、教育免許状授与（代表・松山創平さん）、学業成績優秀学生各1名（商学科・山本みづきさん、観光産業学科・松山創平さん）に表彰状と記念品が授与されました。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、前向きに有意義な学生生活を過ごされてきました。今後の新たな活動での活躍に期待しています。

卒業式の後、同所にて「卒業生を送る会」が開催されました。堂徳将人学長、本学同窓会田口茂春会長が祝辞を述べられ、村松学生支援センター長からオープンキャンパスの学生スタッフとして幅広く活動された学生（飛渡駿佑さん、小岩杏臣さん）に表彰状と記念品が贈呈されました。

参加した卒業生、教職員はこの4年間の学生生活を振り返りながら、学生最後の交流時間を有意義に過ごしました。（事務長 柴田 敬司）



卒業証書・学位記授与式（写真上・中）、卒業生集合写真、卒業生を送る会（写真下）



留学生修了式



令和6年度交換留学生修了式を令和7年2月17日（月）午前11時30分より学内に挙行了いたしました。交換留学生の内訳は、韓国大田大学から2名、中国煙台大学から4名の合わせて6名です。まずは堂徳将人学長より一人一人に修了証書が授与されました。続いて修了生6名に贈った学長祝辞では、平成18年度（2006年度）よりの長きに渡る来歴を踏まえ、今後も交流を深めてほしいとの仁愛が込められ、修了生全員の心に響いたことでしょう。修了生のみなさんには、国境を越えた架け橋となるよう、今後も来札し続けていただきたいと思っております。本学大学院も広く門戸を開け続けています。修了式を通じ思い出となるべく写真撮影をしつつ、その後は食事会へと移りました。食事での歓談で修了生のみなさんがご自身のお国事情と在札中の様々な出来事とを語り合いながら、各々の人生経験を豊かに膨らませてきた様と今後の進路展望を披露し相互交流に邁進する様子が垣間みられました。修了生のみなさんには更なる未来へのご活躍をお祈りいたします。

（国際交流センター長 原子 智樹）



修了式と集合写真（修了生、堂徳学長、原子国際交流センター長と中・韓語学教員）

令和7年度 入学者選抜結果および広報活動報告

2025年度の入学選抜では、学校推薦型選抜（指定校制・公募制）および総合型選抜（I期・II期）においては、書類審査と口頭試問を通じて、高校までの学びや課外活動、進学意欲、基礎学力を総合的に確認しました。一般選抜および大学入学共通テスト利用選抜では、大学での学びに必要な基礎学力を重視した選抜を実施しました。総合型選抜は81名（前年度51名）が合格。学校推薦型選抜では、指定校制59名、公募制10名、併設校推薦15名の出願がありました。これらを合わせた、いわゆる「年内入試」による入学人数は163名（前年度120名）で、入学定員180名の約9割を占めています。年内入試の比率が高まる傾向は全国的にも見られ、本学でも同様の動きとなりました。一方、2月実施の一般選抜は志願者83名と、前年度より15名の減少となりました。大学入学共通テスト利用選抜163名の志願があり、前年（160名）とほぼ同水準を維持しています。

2024年度入試から新たに導入した「入学選抜成績優秀者奨学金」は、一般選抜および共通テスト利用選抜I期の合格者を対象としており、入学後の学びへの意欲を後押しする制度として好評です。また、年内入試合格者には、英語・韓国語・中国語、国語に触れるEラーニング課題を実施しています。これにより、高校から大学への円滑な接続を目指しています。

2025年度の入学人数は231名で、前年度（189名）より42名の増加となりました。留学プログラムや、データサイエンス・AI関連科目の開講など、本学の教育内容が多く受験生・学校関係者から評価された結果と考えられます。今後も社会や地域の変化を的確に捉え、より魅力的な大学づくりを進めてまいります。

オープンキャンパスは全5回開催し、参加者は605名（前年度479名）と増加しました。学生ボランティアの活躍もあり、参加者からは「学生の成長が感じられる」との声も寄せられています。昨年度より本格運用を開始したInstagramも好評です。ぜひご覧ください。

https://www.instagram.com/hokkai_shoka

（入試・広報センター長 三田村 保）



令和7年度新入生オリエンテーションと新入生記念写真



優秀学生表彰と 新入生への3つの提案

優秀学生表彰

3月25、26日の両日に、新2・3年次の学生を対象に、北海商科大学教育振興資金による学業成績優秀学生表彰式を実施しました。学業成績優秀学生として通算GPAに基づく成績評価で上位3位までの学生3名を選出し、学長より表彰するとともに、奨励金を授与しました。

新入生へ「他者との共存・協働に向けて」

新入生の皆さんに、大学での学びの効果を最大化するために、まずは「大学での学びとは何か」を3つの視点から考えていただきたいと思います。

◆1. 学問をする 学問とは、学ぶことと問いを立てることの連続です。誰もが子どもの頃には多くの問を持っていましたが、成長する過程でその力を失いがちです。大学では、その封印を解き、自ら問いを立て、答えを探る力を育ててください。教員やAIの言葉を鵜呑みにせず、常に考える姿勢を持ちましょう。



学業成績優秀学生表彰式（写真上：新2年生左から小林桜奈さん、吉田安那さん、堂徳学長、島村京佳さん。下：新3年生左から工藤愛華さん、龍瀧佑哉さん、堂徳学長、菊地航志郎さん）

◆2. 高校とは違う 大学は高等教育機関であり、教員は研究者でもあります。社会や人、自然のための研究に日夜励み、専門家として社会貢献しています。そんな専門家が設計した授業は、皆さんの10年後、20年後に役立つことを想定し、学生が主体的に学ぶよう設計されています。皆さんも「生徒」から「学生」へと意識を変え、自ら学ぶ姿勢を持つことが求められます。

◆3. 大人として学ぶ 大学生は大人としての学びが求められます。当然ですが、授業中の私語やスマートフォンの無断使用、遅刻・欠席などは厳禁です。自主的に記録を取り、真摯な姿勢で学修に臨んでください。他方、大学にはオフィス・アワーや多種の相談窓口など、主体的な学びを支える制度も整っています。積極的に活用し、充実した学生生活を送りましょう。

（教務センター長 池ノ上 真一）



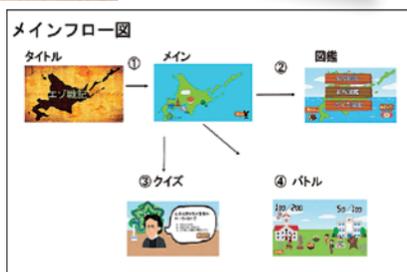
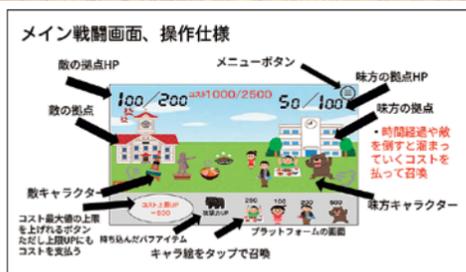
昨年のオープンキャンパス（8月3日）の様子

サークル活動の紹介

北海道の魅力をゲームで発信！ 学生チームがゲーム学会ゲームコンペで優秀賞

本学の学生チーム「HOKKAIツクールLab（3年：藤島悠人さん、長田悠佑さん、近藤耕志さん、4年：加藤 大飛さん）」が、ゲーム学会第22回ゲームコンペにて優秀賞を受賞しました。受賞作品『エゾ戦記』は、北海道を舞台にしたゲームで、名産品や観光スポットをモチーフにしたキャラクターやクイズなど、地域の魅力を楽しく学べる内容になっています。中心メンバーである藤島悠人さんと長田悠佑さんは、「今回制作したゲームは、北海道の名産品が暴れ出し、プレイヤーがそれを解決するという内容です。タワーディフェンス、クイズ、コレクション機能を取り入れました。メンバー全員がゲーム制作初心者でしたが、アイデアを出し合い、創意工夫しながら制作に取り組みました。この経験を活かし、今後も精進していきたいです。」と語っています。また、本学ではこの成果に対し、学生支援センター長表彰を授与しました。観光と情報の融合による新たな表現の好例として、今後も学生が自由な発想で挑戦し、実践を通して成長できる機会を大切にしていきます。

（三田村 保）



ゲーム学会第22回ゲームコンペ優秀賞表彰状と受賞作品イメージ図

令和7年度 サークル一覧	
体育	軟式野球部
体育	バドミントンサークル
体育	フットサルサークル
体育	陸上競技部
体育	バスケットボールサークル
文化	環境ボランティアサークル
文化	韓国語サークル
文化	軽音サークル
文化	教育研究会
文化	中国語サークル(歓々喜々)
非公認	空手同好会
非公認	ゴルフ同好会
非公認	スカッシュ同好会
非公認	ボードゲーム同好会
非公認	よさこい同好会
運営団体	サークル連合執行部
運営団体	体育祭・大学祭実行委員会



写真上：全日本学生フルコンタクト空手道選手権大会で優勝した河合透吾さん、写真中：陸上競技部、下左：環境ボランティアサークル、右：大学祭実行委員会



就職支援について

キャリア支援センターでは、学生一人ひとりの将来を見据えた進路支援に力を入れています。就職活動を中心に2024年度を振り返るとともに2025年度の取り組みをご報告します。

学生は、大学での講義「職業キャリアデザイン（特殊講義Ⅰ）」をはじめ、就職スタートアップ講座、エントリーシートの書き方の指導、面接指導、業界研究会などを通じて、社会に出る準備を着実に進めてきました。2024年度は、売り手市場が続くなか企業の採用意欲も高く、業界を問わず求人数の増加もあり、過去5か年で最も高い就職決定率（就職決定者/就職希望者=97.3%（2025年4月1日時点：暫定値））を更新しました。

特に、卸売・小売業、金融・保険業、情報通信業など、地域経済を支える産業への関心が高く多数の就職実績を上げています。なお、就職のほかに、ワーキングホリデー制度の利用、起業など、多士済々な面々が、それぞれの分野で活躍しています。

2025年度卒業予定の学生に対しては、早期からのキャリア形成のいっそうの支援をすすめています。1年次からの基礎的キャリア教育に加え、インターンシップ参加を促し、実践的な職業観の醸成を図っています。地元企業との連携も強化しており、特に、北海学園大学との連携で、複数回にわたり「学内合同企業説明会」を開催するなど、地域とのつながりを重視した支援を展開しています。



2月25日に行われた北海学園大学との合同企業セミナー



本学のキャリア支援は、単なる就職支援にとどまらず、学生のキャリア形成を考え、自らの生き方を発見できるよう心がけています。今後も企業・団体の皆様と連携し、学生の持つ可能性を最大限に引き出す取り組みを継続してまいります。

最後に学生諸君へ！

将来への進路決定にあたっては一人で悩まず、まずはキャリア支援センターを訪ねてきてください。自己分析にはじまり、（就職を希望する場合を中心に）エントリーシートの添削、面接対策へのアドバイスに至るまで、専門スタッフが親身にサポートします。キャリア支援センターの利活用によって選択肢が広がり自信も深まります。将来への進路決定への第一歩を、キャリア支援センターとともに踏み出しましょう。

（キャリア支援センター長 伊藤 寛幸）

留学のこと聞きたい！

特集

本学には、交流提携を結ぶ海外の大学との交換留学プログラムがあります。1年次後期の留学は約5か月間。昨年、韓国・テジョン大学校へ留学した2年生から、今年留学を考えている1年生へ、韓国での生活や体験について話してもらい、留学に関する疑問にも答えてもらいました。

韓国編

司会
李鳳先生
商学科 教授



● 2年生の留学経験者左から小林桜奈さん、風間梨羽さん、菅原未帆さん、榊原 凜さん



● 去年留学した2年生は、実際に行ってどうでしたか？

小林 めちゃめちゃ楽しかったです！でも、自分から積極的にチャレンジしないとこんなに楽しくなかったと思う。韓国語を学ぶ語学堂は外国人のみなので、教室だけでは韓国人とのコミュニティを作れません。大学のプログラムにはすべて参加するなど、交流の機会を自分で掴むというのが有意義な留学生活を送るカギかなと思います。

菅原 私も、自分から積極的に韓国人と話さないと韓国語の実力を伸ばすことができないと感じました。現地の人しかわからないこと、自分たちだけだったら知らないこともたくさんあるので、コミュニケーションは大事です。

風間 私は韓国以外の国の人と話すことや、韓国人の先輩と仲良くなって遊びに行ったのが楽しかった。観光旅行では行かないような場所を訪れたり、たくさん体験ができました。

榊原 留学先のテジョンは日本人が少なく、日常的に韓国語に囲まれた環境。何か月後には「自分は成長したな」と感じられました。あとは交通費がすごく安いので、いろんな地域へ旅行に行くことも勉強になるし、思い出にもなるのでおすすめです。

● 文化の違いを感じて大変だったことは？

小林 韓国人はせっかちな人が多い印象でした。たとえば、バスの停まっている時間が短くて乗れないことも。あと、最初は語学堂で、ほかの国の人が時間を守らないことや騒がしいことが気になりました。でも国が違えば文

化も違うので、お互い理解し合わなければならぬことだと思えました。異文化を知れて、逆に楽しかったです。

風間 少しびっくりすることはありましたが、すぐに慣れました。バスを降りるときは停まる前にカードをピッとするのもすぐ慣れた。でも、ゴミ箱には慣れませんでした（笑）。

菅原 衝撃だったのは最初に寮に入ったとき。前の人が片付けず出ていったようで、1日目はその部屋で寝られなかったくらい汚かった。自分たちできれいに掃除して、その後は問題なく過ごせました。

榊原 日本と違ってコンビニにトイレがないのが一番不便でした。外のトイレは汚いところが多くて、つい我慢してしまっただけ。ほかは、韓国人はまわりをあまり気にしないから自分たちも気にせず過ごせたので、苦労したとかはないです。

● 1年生から先輩に質問はありますか？

鹿野 大学では韓国語の授業だけですか？

小林 1年生の留学は語学の韓国語の授業のみで、平日の朝9時～13時まで。3年生、4年生の長期留学は他の科目も取れます。

小林 授業とは別に大学が実施するプログラムがあって、日本語を韓国人に教えたり、逆に韓国人から韓国語を学んだり、英語も学べます。申し込めばコミュニティが広がると思います。

福原 留学の選抜テストって、どういう感じですか？

小林 基本から難しい作文まで幅広く出題されます。落とすところは落と

さないようにすれば、絶対大丈夫だと思いますよ。



涌井 向こうでは、どのくらいお金が必要ですか？

菅原 航空券や食費などの経費と旅行など、すべて含めて5カ月で80万くらいでした。

榊原 生活費は頑張って月5万円くらいかな。でも、誘惑が多すぎて使っちゃったり（笑）。個人差はあると思いますが、月5万から10万円のあいだだと思います。

菅原 日本と比べると食べ物も服も安いよね。風間 一番安いと感じたのはコーヒー。スタバのコーヒーも日本のほうが高い。

榊原 シジャン（市場）の食べ物がめっちゃ安かった。交通費も1日300円あればどこでも行けます。

風間 野菜や果物は高く、リンゴは1個300～400円くらい。でも、なぜかシャインマスカットは一房700円とかで安かったです。

佐竹 私はまだ韓国に行ったことがないのですが、友達に相談すると「覚悟を決めろ」と言われました。いきなり半年近くも行って大丈夫でしょうか？

菅原 私も留学が初めての韓国だったけど、大丈夫でしたよ。ぜひ覚悟を決めてください（笑）。

岡澤 寮は一人部屋なのか、グループで相部屋なのか気になります。見知らぬ人と相部屋ということもありますか？ あと、5か月でどのくらい上達するんですか？

榊原 外国人の方と相部屋もあり得ると思います。

● 部屋割りは毎年変わります。去年の男子は玄関が共用の一人部屋でしたが、予想外のことがあるのが留学です。そして留学後は語学の面でものすごく成長する、とくに会話の能力は高まります。現地生活することはやはり大きいですね。では先輩から、これは準備しておいたほうがいいというものは？

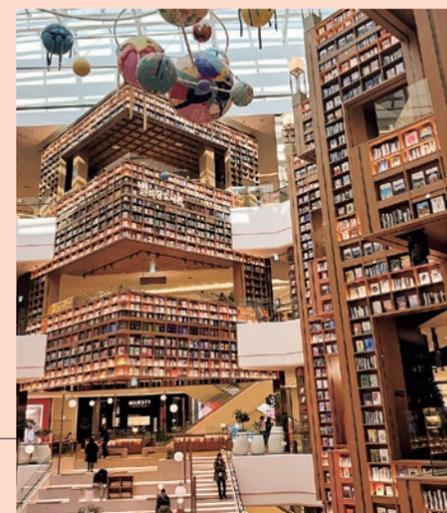
榊原 部屋の状態がわからないので掃除用具と、日本の調味料。あと、小袋のお菓子は韓国人と仲良くなるツールとしておすすめです。

菅原 意外と歓迎会などの会で現金を使うことが多かったの、持っていったほうがいい。

風間 クレジットカードは限度額が足りなくなることもあるから複数枚あると安心です。

榊原 お腹が弱い人は、辛い食べ物が多いので薬も持って行ってほしい。

小林 どんな状態の部屋でも立ち入れるように、スリッパは絶対に持っていきべき。あと、韓国では別会計できないお店が多いので、外食では誰かがまとめて払うことになる。WOWPASS（ワオパス）という外国人も作れる韓国のキャッシュレス決済のカードを作っておけば、お金のやりとりがスムーズ。韓国人の先輩に払ってもらったときにも、アプリから先輩の口座にお金を送れるので便利です。



ようこそ北海商科大学へ!

交換留学生歓迎会を開催

令和7年度交換留学生歓迎会を令和7年4月26日(土)午前11時30分より地下1階自由学習コーナーにて国際交流センター主催で開催いたしました。この歓迎会は、本学の新入留学生同士、および日本人学生との交流を深めることを目的に開催しています。

今年度は、中国煙台大学交換留学生5名、韓国大田大学校交換留学生2名と、外国人新入生2名を迎え、本学有志の各先生(佐藤千歳学部長、中国語担当の蘇先生、韓国語担当の水野先生、英語担当のニールセン先生、中国語担当の劉先生、澤内先生、郭先生)、また事務職員・本学学生の方々が参加しました。



写真左・右上…歓迎会の様子
写真右下…各大学留学生の皆さん



●留学希望の1年生の皆さん、左から鹿野美瞳さん、福原こころさん、涌井亜美さん、佐竹夢奏さん、岡澤紳太郎さん



●最後に、先輩から後輩へ一言。
榊原 留学は、日本にいるときとは違う環境で自分を変えられる大きなチャンスだと思います。そして自分が好きで得意な言語である韓国語をじっくり学ぶことができます。迷っていても、行ったら自分の形ができていくと思うので、ぜひ行ってほしいです。

菅原 私は初めての韓国がテジョンだったこともあり、第二の故郷のように感じます。テジョン大学校の日本語学科の人たちとの交流も、みんな優しくとても楽しかった。きつと良い経験になります。

風間 部屋の問題はありましたが、仲のいい友達と一緒に生活したことなど、後から思えば全部楽しい出来事と思えます。そして、友達とはもっと仲良くなれました。

小林 経験は全部自分の自信に変わるし、チャレンジできることの幅が広がります。今後の意欲にもつながるので留学は絶対いい経験になると確信しています。できることは全部チャレンジしてほしいです。

●1年生は先輩たちの話を聞いてどうでしたか?



岡澤 気になっていたことを知れてイメージが湧いたので、勉強を頑張ってぜひ行きたいです。

佐竹 不安な気持ちが大きかったんですが、先輩たちが後押ししてくれたので楽しみになりました。

涌井 聞きたかったことを聞けたし、予想がつかなかったことも教えてもらえたので、不安がなくなりました。

福原 先輩たちのアドバイスのに従い、ちゃんと準備して行こうと思います。

鹿野 留学試験に向けて頑張って勉強して、先輩たちのように楽しい思い出を作りたいと思います。

●お互い助け合って有意義な留学にしてくださいね!



歓迎会冒頭、水野先生による乾杯から立食形式で歓談が始まり、本学の先生方のご挨拶、交換留学生と外国人新入生のみなさんの自己紹介を随所に交えながら、本学学生と親交を交わし、会場は明るい雰囲気となりました。今年一年も留学生と日本人学生が深めた交友を支えに学びあうことを期待しています。今後は中国語の受講者がさらに増え協定校たる山東大学・威海分校や煙台大学から交換留学生を受け入れ続けたいものです。最後に参加者全員で記念撮影を行い、後片付けをしながら終了しました。散会後も賑やかな話し声が会場に響きあふれていました。(国際交流センター長 原子 智樹)



中国 煙台大学から
写真左上: 左から、李曉燕さん、黄佳寧さん、邢露義さん、朱小晗さん、丁琪さん

韓国 大田大学校から
写真右上: 左から柳旻さん、金延奎さん

新入生 中国から
写真下: 左から鄧佳和さん、徐玉涵さん

11

12

13

スンチョン大学とのMOU、短期研修と国際交流について

北海商科大学は中国(山東大学・威海分校、煙台大学)、韓国(大田大学校)、そしてカナダ(レスブリッジ大学)の各協定校と交流事業(交換教授・学生の派遣及び受入)を実施しています。とはいえまずはこの韓国新協定校の話題から述べるべきでしょう。1月15日に韓国国立順天大学校の研修団が本学を訪問し、MOU(基本合意書)の調印式を執り行いました。交流の詳細は協定覚書の締結までお待ち頂きますが、新規に韓国への学生派遣(留学)がもう一系統できあがる予定です。本学ホームページもご参考になさってください。

国立順天大学校は、韓国南部の全羅南道順天市にあり美しいキャンパスが特徴の国立大学であり、地元地域と連携しつつ世界的視点での教育・研究機関として、韓国内外から学生を受け入れ多様な分野での人材育成に尽力しています。

中国語授業の受講者も大幅に増加しつつあり、中国協定校への語学留学志望者も増えてきております。また今年度は、北海学園大学と合同でレスブリッジ大学から恒例の短期学生受入事業が実施されます。こちらも6月に向けて着々と準備が進捗しております。

(国際交流センター長 原子 智樹)



写真上…順天大学校研修団の皆さんと本学原子先生、李鳳先生、協力学生の皆さん。左下…交流基本合意書を取り交す順天大学校イ・ホムソン教授と本学堂徳学長、右下…来学したレスブリッジ大学短期研修の皆さん(対面式)



留学だより

中国・煙台大学留学

●商学科4年 萩澤 りんな

中国に留学してすぐの頃は、生活面で日本との違いに戸惑いや不安を感じる事が多くありましたが、生活していくうちに徐々に環境に慣れていき、快適に過ごせるようになってきました。そして授業では、中国語を実際に話す科目が設けられており、クラスメイトや先生と積極的に会話をする事で、少しずつではありますが中国語を話す力が伸びてきているように感じます。最近では、休日に大学の外で食事やショッピングをするなど授業以外でも中国語を使う機会を増やすよう心がけています。また、留学生寮の近くには6階建ての大きな図書館があり、朝6時から夜10時まで利用でき、勉強できる環境が整っているため、授業終わりに図書館に行くなど、自然と図書館で勉強する機会が増えました。さらに、現地の学生だけでなく、韓国やロシアをはじめとするさまざまな国の留学生とも交流することができ、異文化に触れる機会もあるため、多くのことを学びながら充実した留学生活を送っています。



大学近くの海に遊びに行った時の写真

研究のいま ●山田 勅之 教授

「ナシ学」の発展を目指して



社会の周縁に置かれたマイノリティの存在が注目を浴びるのは、マジョリティとの対立が顕在化する時や観光の対象とされる時ではないでしょうか。一方で、このような人々が、過去から連続と独自の世界観を持って、日々の暮らしを続けてきたことは言うまでもありません。

私は歴史学と観光学の立場から、中国の少数民族の動態を研究しています。そのなかで、現在最も力を入れて取り組んでいる「ナシ学」の発展に向けた歴史学的研究の一端を紹介いたします。

「ナシ学」とは、中国雲南省に集住する少数民族・

ナシ族を研究対象とした学問分野です。日本ではあまり知られていませんが、ナシ族学者を中心に、彼らの独特の宗教であるトンパ教の経典に用いられるトンパ文字（象形文字）の言語学的研究を嚆矢として、歴史学や人類学、宗教学、文学、観光学などといった様々な学問領域から研究が進められており、一定の地位を築いています。

右*写真2をご覧ください。これは土地契約に関わる覚書です。年次の記載が日本でいう十干十二支に相当するもののみなので、作成時期は確定できませんが、少なくとも1897年以前に作成されたものと思われます。使用言語は上段がチベット語、下段がトンパ文字で記されたナシ語です。このような形態を取っているのは、この覚書の当事者がナシ族の者とチベット族の者であり、自言語でそれぞれ記したほうが、双方にとって内容を瑕なく的確に表現できると判断されたからでしょう。他方、当地の基層社会では、漢語が両者の共通言語とし

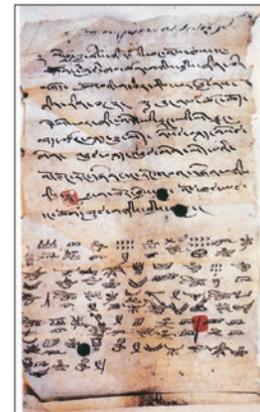


*写真1. 雲南省シャングリラ市のある村にて、老人より教をいただく筆者

て浸透していなかった状況も看取されます。

私はまず両言語の日本語訳を行って内容の把握を試みました。しかし、不明な点がいくつかあったため、この文書が保管されていた村（雲南省シャングリラ市）に赴き、当地のお年寄りから教をいただきました*写真1。記載内容の詳細は紙面の都合上、省略しますが、私に関心を持った点の一つを紹介します。ここには、当事者の名前以外に、それぞれが立てた証人の名前も記載されています。このこと自体は、両当事者間だけでは、取り決めの遵守が心許ないため、証人が必要であったことを示しています。では、彼らはどのような人物なのでしょう。ナシ族側はトンパと呼ばれるトンパ教の祭祀を司る者、チベット側はラマと呼ばれる高位の僧侶です。つまり、両者は宗教指導者であります。同時に世俗社会の問題調停にもあたる、地域のリーダー的存在であったことも伺うことができます。このように、マイノリティの言語で記された文書から、その社会の動態の一端を読み取ることができます。

他に「ナシ学」の発展に向けた研究成果として、本年3月に研究報告書（科学研究費助成事業）を発行しました。簡単な紹介ではありますが、本号8ページの「新刊紹介」にてご確認ください。



*写真2. 覚書：『中国少数民族古籍総目提要西族巻』中国大百科全書出版社、2003年、37頁

韓国語学習の広がり 地域連携

北海道大学韓国語留学生との交流会を開催

2024年10月5日（土）、本学の韓国語履修学生と北海道大学の韓国語留学生による交流会が、札幌韓国文化会館にて開催されました。参加者はまず自己紹介を通じて親睦を深め、その後、韓国の伝統的な遊び「ユンノリ」を体験。韓国語でのコミュニケーションを通して、楽しく充実したひとときを過ごしました。交流会の後半には、札幌韓国教育院の朴熙喆による「韓日共同高等教育留学生の交流事業案内および地域大学と連携したミニ留学博覧会」というテーマで特別講義を実施いただきました。本企画は札幌韓国教育院の主催により実現したもので、学生たちにとって韓国文化への理解を深める貴重な学びの機会となりました。

韓国語弁論大会で本学学生が入賞

去る年11月9日（土）、第26回北海道韓国語弁論大会（主催：札幌韓国教育院）が開催されました。本大会は、北海道地域における韓国文化・韓国語の普及促進と、日韓親善および国際交流の発展を目的として毎年実施されています。本学からは2名の学生が参加し、見事な成績を収めました。今野 梓紗さん（2年生）は「私の生活と韓国ドラマ」をテーマに銀賞を、工藤 愛華さん（2年生）は「韓国ドラマの人気と韓日関係の肯定的な効果」で奨励賞を受賞しました。これは一昨年の大賞・金賞受賞に続く快挙であり、本学の韓国語教育の成果を示すものです。お二人の努力と成果に、心より拍手を送ります。



写真左・中：韓国語履修学生と北海道大学の韓国語留学生による交流会、写真右・下：札幌韓国教育院の朴熙喆 院長を特別講師に迎え、「韓国伝統文化特講」



「韓国伝統文化特講」を実施 - 伝統音楽と文化を体験

去る11月27日（水）、本学の授業「韓国語会話作文Ⅱ」（担当：李 鳳 教授）において、札幌韓国教育院の朴熙喆 院長を特別講師に迎え、「韓国伝統文化特講」が実施されました。講義では、韓国の伝統的な打楽器音楽「サムルノリ」のリズムと、韓国文化の魅力について紹介いただきました。ケンガリ、チン、チャンゴ、ブクの4つの楽器を用いた迫力ある演奏に触れた学生たちは、実際に演奏や体験も行い、韓国文化を身体で感じる貴重な時間を過ごしました。

学生からは、

- ・「楽器を演奏しながら踊る体験が忘れられない」
- ・「チマ・チョゴリを着ることができてとても楽しかった」
- ・「K-POP以外の韓国文化にも興味を持つきっかけになった」
- ・「韓国語での説明を理解でき、自信につながった」



といった声が寄せられ、参加者の満足度の高さがうかがえました。

このような文化的・教育的な取り組みを通じて、韓国語学習に対する関心や意欲が一層高まっていることを実感します。ご協力いただいた朴院長に心より感謝申し上げます。

（李 鳳）

OB・OG NOW!

●コンサドーレ札幌オフィシャルチアダンスドリルチーム
CONSADOLLS

杉浦 楓彩さん

〔2025(令和7年)年 商学部観光産業学科卒業〕

私は幼少期からドキドキ・ワクワクすることが大好きでした。そのため学生時代には、ピアノ・ダンス・料理・バスケットボール・留学・よさこいなど「やりたい!」と思ったことは余すことなく全て全力で取り組んできました。大学生生活の始まりはあいにくコロナウイルスの影響から留学断念となりタイミングの悪い結果となりました。しかし学生生活を取り戻す勢いで、1番楽しそうだと思い選択した千葉ゼミでは「地域交通」と「観光行動」を学び、ニセコでドローンを飛ばしたり、エスコフィールドで韓国人の方の通訳案内をさせていただいたり、ペロタクシーを使ったツアーを企画・運営するなど、「ワクワクを掘り下げ実感を体感しながら課題を見つけ解決法を探す」という楽しみながら学ぶ経験ばかりをさせて頂きました。また千葉先生から勧めていただき学外



写真：「道新サンクスマッチ」の日の選手入場時

活動で参加したマチヅクリ大学では、お寺の住職さんや北海道新聞社さんと活動する機会をいただき、その後北海道新聞社さんのCMに出演させていただくという貴重な経験をさせていただきました。そんな学生生活の傍ら幼少期から続いていたダンスで新たにチアダンスを始めました。ダンスで人を笑顔にするだけでなく応援力を与えるチアダンスやチアスピリッツに魅了されプロのチアガールになりたいと強く思うようになりました。就職活動時にも会社員になるかチアガールを目指すか何度も悩みましたが、強く憧れたチアガールを目指し、コンサドーレ札幌のオフィシャルチアダンスドリルチームであるCONSADOLLSのオーディションに参加しました。現在ではCONSADOLLSの仲間達に支えられながらスキルアップを目指し楽しみながら練習を続ける毎日を送り、コンサドーレ札幌の勝利に向け全力で応援を続けています。

皆さんも大学生生活を思う存分楽しみながら学びを得られるよう沢山のチャンスに飛び込んでみてください、皆さんの挑戦を心から応援しています!



写真：試合開始前に行われるパフォーマンス 写真全3枚 ©2025 CONSADOLLS

中国語スピーチコンテスト報告

「漢語橋」・中国語スピーチコンテスト予選大会で入賞

5月25日に開催された第6回全日本大学生中国語スピーチコンテスト・第24回「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト北海道ブロック地域の決勝大会において、本学から出場した久保詩音さん、蛭名萌花さん、後藤亜由未さんが全員入賞するという素晴らしい成果を取めました。

「漢語橋」世界大学生スピーチコンテストは、中国で毎年開催される国際的な大会です。当大会は、スピーチ、中国百科知識クイズ、中国文化関連の特技の披露も含まれているので、出場者の総合的な能力が問われる最高レベルの大会です。今年、北海道ブロック地域においては、例年より参加者が多く、18名で予選を経て、最終13名で北海道ブロック地域の決勝大会に出場しました。

本学2年生の久保詩音さん、蛭名萌花さん、後藤亜由未さんが3人そろって地域の決勝に出場し、それぞれが「语言的温度」、「天下一家-幸福为我开启幸福之门」、「家」といったテーマで完璧なスピーチを披露しました。さらに、蛭名萌花さんは「鴻雁」という民族舞踊、後藤亜由未さんは「茉莉花」のピアノ曲をパフォーマンスしました。審査の結果、久保さんは全日本大学生中国語スピーチコンテストにおいて一等賞、蛭名さんは「漢語橋」の二等賞、後藤さんは優秀賞と、3人とも表彰された快挙となりました。特に、久保詩音さんのスピーチに対して、審査員代表の公表では、まるで声優さんのような流暢さと表現力だったと高く評価されました。久保さんと蛭名さんは、北海道ブロック地域の代表として、6月21日東京で行われる全国の決勝大会に出場することになりました。

(劉 珂)



写真:左から久保詩音さん、後藤亜由未さん、蛭名萌花さん

修学旅行連動型出前講義を始めました!

2024年度より、修学旅行の事前講義に対応した出前講義を始めました。初年度は道内各地の5校から依頼があり、京都担当の保坂及び広島、沖縄、シンガポール担当の坂口が講義を行いました。

京都についての講義では、源氏物語の物語世界で描かれた都の姿から、文学や文化、歴史の観点から京都を見つめ直す講義を行いました。広島講義では、原爆開発を国際的視点でとらえた講義をしました。沖縄講義では、北海道出身の兵士の犠牲を通して、北海道と沖縄の共通点を考えてもらいました。シンガポール講義では、シンガポールの歴史や戦争含む日本との関係、そしてシンガポール発展戦略についてお話ししました。また現地での班行動の際の助言も行いました。

現地に行ってみないとわからないことがあります。その一方で、事前知識がなければ、現地を通して多面的に深く考えることはできません。この修学旅行対応型出前講義を通して、現地を通して学ぶことの重要さと楽しさを知ってもらいたいと思います。

(坂口 可奈)



17

18

19

20

写真左：戦争中にイギリス軍の降伏交渉が行われたシンガポールの旧フォード工場、写真右：アジアの金融・ビジネス・交通・アートのハブへと成長したシンガポール



アメリカ・ウェルズリー大学との韓国語交流講義を実施



去る11月14日、本学の4年生の韓国語授業「PALIV」（担当：李鳳 教授）において、ウェルズリー大学 (Wellesley College) の韓国語上級クラス「Advanced Korean」（担当：Lee Sun Hee 教授）とのオンライン交流授業が行われました。学内Wi-Fi環境を活用し、Zoomを通じて実施された本授業は、国際的な視野を広げる貴重な機会となりました。ウェルズリー大学は1870年に設立されたマサチューセッツ州の名門リベラルアーツカレッジで、ヒラリー・クリントン氏やマデレーン・オルブライト氏など、数多くの著名な女性リーダーを輩出しています。少人数教育ときめ細やかな指導を重視する点で、本学と多くの共通点を持つ大学です。当日は、韓国語を用いて互いの大学や故郷について紹介し合った

後、韓国映画『パラサイト』を題材に、物語の構成や登場人物、ミザンセーム (画面構成) について活発なディスカッションが行われました。さらに、この取り組みは高く評価され、2025年6月にアメリカで開催される北米韓国語教育学会 (AATK) にて発表されることが決定しました。Lee Sun Hee 教授と李鳳教授は、「Innovative Pedagogy for Advanced Korean Learning: Integrating Modern Narratives, Multimodal Digital Literacy, Global Networks, and Hands-On Activities (上級韓国語学習のための革新的な教育法：現代の物語、多様なデジタル・リテラシー、グローバルなネットワーク、体験型アクティビティの統合)」と題し、国際共同授業の成果とその教育的意義について報告する予定です。(李 鳳)



写真・オンライン交流授業の様子



写真上：地域遺産チームが寿珈琲で打合せの様子
写真下：多文化共生チームが留学生らと交流の様子

池ノ上ゼミでは、「観光まちづくり」を活動の中心的な柱として掲げ、その目的を、多様な文化的背景を持つ人々が共に暮らし、互いを尊重し合いながら生活する「多文化共生社会」の実現に置いています。観光という切り口を通じて地域に深く関わるこのゼミでは、学生たちは単なる理論の学修にとどまらず、現地に足を運び、実際のまちづくりの現場で実践型の教育を行っています。その活動は大きく二つのチームに分かれ、それぞれが独自の視点と方法で地域と関わりを持っています。

一つ目の「地域遺産チーム」では、地域の魅力を再発見し、それを多くの人々と共有することを目的に、「地域ナラティブ (語り)」の収集と発信を行っています。地域ナラティブとは、地域に暮らす人々が持つ記憶や経験、想いといったストーリーの集合体であり、これを掘り起こすことで、まちづくりの基盤となる共通の価値観や誇りを育むことができます。この取り組みの発端となったのは、日本三大がっかり名所のひとつと揶揄される「札幌時計台」の持つ否定的なイメージをどう転換するか、という問いでした。この疑問を出発点に、現在では札幌の創成イースト地区に焦点を当て、店主や長年住んでいる住民から直接話を聞き、食文化や建築、地域の歴史にまつわる話を集め、それらをもとに食べ歩きマップやwebページを制作しています。

もう一つの「多文化共生チーム」は、主に外国人住民との交流を通して、多文化共生の理念を体現する活動を行っています。このチームでは、昨年度は北海道大学や北海学園大学の留学生と共に、手作りのボードゲームを用いた交流イベントを企画・実施しました。このような活動を通じて、言語や文化の壁を越えたコミュニケーションの可能性を追求すると同時に、留学生が日本での生活や就労をより現実的に考えるきっかけにもなっています。さらに現在では、過去の文献や先行研究を参考にしながら、より持続的で効果的な多文化共生プロジェクトの在り方について検討し、活動の改善にも積極的に取り組んでいます。両チームの活動に共通するのは、地域で活躍する人を「カウンターパート」として位置づけている点です。このアプローチにより、学生たちは単なる体験学習ではなく、地域社会の一員として責任ある立場でまちづくりに参画することになります。こうした「ごっこ」ではない、実践的かつリアルなフィールドワークを通じて、学生たちは自らの専門性と社会的な役割を問い直し、将来的には地域社会に貢献できる人材としての基礎を築いています。



ゼミ訪問 ◆池ノ上真一 教授 観光研究ゼミナール◆

観光学部の3年次前期、4年次前期に開講されている「観光研究ゼミナールⅡ・Ⅳ」。観光研究ゼミナールⅡ(2年次後期)・Ⅲ(3年次後期)での取り組みの成果と課題を踏まえて、テーマ別活動(アクティブラーニング中心)により、世界の中の北海道の現状を知り課題を見つけ出す力を養うことを目指しています。

レスブリッジ滞在記

商学科 准教授 保坂 智

はや4ヶ月が経とうとしているとはとても信じられません。子どもたちももっといたいと話しています。それほどこの期間は私達家族にとってすばらしい体験でした。レスブリッジ大学国際センターの教職員の皆様、レスブリッジで出会った人々のおかげです。ありがとうございます。

カルガリーから南へ車で2時間ほどの距離にあるレスブリッジは日照時間が長い都市として有名で、冬でも青空が広がることが多いため気持ちよく過ごすことができます。強風で冬はマイナス20度を超えると聞いておりましたが、温暖化のせいかな数えるほどしか冷え込まず、積雪が圧倒的に少なくむしろ札幌より快適でした。何よりクーリーと呼ばれる世界遺産級の渓谷に溶け込む大学からの眺めは見飽きることなく、なんとも贅沢なものでした。

レスブリッジ大学を卒業したシエラレオネ出身のダズ・カマラ氏の講演を拝聴する機会があったのですが、貧困や戦争で苦しむ母国に対する支援活動を行っている氏のように、信念を持ち世界で活躍する人材を輩出できるのは、この雄大な自然と世界中から集う学生、優しい人達が暮らすレスブリッジにある大学だからこそ可能なのでしょう。

自分の研究と教育についても多くの気づきがありました。何より日本文学は日本人だけ読むものではないことを実感できたこと、暗記中心の日本の教育とは異なるカナダの教育を



国際センター長ポール氏のご自宅にて夕食会

知ったことなどです。日本のすばらしさはその伝統にありますが、つい過去にとらわれがちです。カナダにはヨーロッパの伝統を踏まえつつもそこからある程度断絶した独自性、多様性や自由な精神があると感じました。愛聴しているグレン・グールドのような真に革新的なピアニストもカナダだから生まれたのだと得心がきました。

学校法人北海学園とレスブリッジ大学との交流は6年後に50年になります。さらに実り豊かなものなるよう、帰国後も微力ながら尽力し、貢献できればと考えています。



写真上：24時間学習可能なレスブリッジ大学校舎
写真中：レスブリッジ大学での講義
写真下：日系文化協会新年会で。左が保坂智先生、中央は州議員、右はレスブリッジ大学教授
※背景写真はクーリーと呼ばれる渓谷

新任職員紹介



■新任職員

小柳 雄貴
コヤナギ ユウキ
教務センター

皆さま、はじめまして。この度教務センターに配属となりました、小柳雄貴と申します。

3月までは地方自治体の職員として、教育委員会社会教育関連の部署に3年間、総務関連の部署に1年間勤務してきましたが、転職を機にご縁があり、今年度より北海商科大学職員として新たなスタートを切ることになりました。

まだ、右も左もわからない慣れない状況ではありますが、これまで行政の立場から教育に関わり培ってきた経験を活かしつつ、一日でも早く職場に慣れ、大学という新たなフィールドでもしっかりと貢献し、皆様のお力になれるよう精一杯努めてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

新刊紹介



『ナシ学確立を目指した歴史史料の基盤整備と前近代ナシ族社会経済史の研究』
山田 勅之(本学教員) 共著
2025年3月科学研究費助成事業



『増補版ナシ語地名彙編』
山田 勅之(本学教員) 共著
2025年3月科学研究費助成事業



『海と灯台学ジャーナル』
創刊準備号
池ノ上真一(本学教員) 共著
2025年3月/日本海洋文化総合研究所



『海ノ民話学ジャーナル』
創刊準備号
池ノ上真一(本学教員) 共著
2025年3月/日本海洋文化総合研究所



『中国年鑑2025』
佐藤千歳(本学教員)共著
2025年4月/中国研究所



『神奈川の戦後80年』
坂口 可奈(本学教員) 共著
2025年8月/えにし書房

@カウンセリングルーム Newsletter 12

「対話でストーリーが変わる」



カウンセリングルーム 小林 美穂子
(臨床心理士・公認心理師)

人生生きてると、ある日突然、思いもよらない災難に遭遇することがあります。私自身は、年明けに大きなケガをして緊急手術を受けました。しばらくの間は、ひたすら激痛とともに横たわらなければならない状況が続き、さすがにメンタルも引っぱられそうになりましたが、そんなとき友人から、「開放骨折(骨折した骨の端が皮膚を突き破って露出するもの)でなくて良かった。ケガは大変だけど、何かに守られている気がするよ」と言われました。私自身は、「守られている」という視点からは考えたこともなかったのですが、言われてみて、なるほどと思いました。

ある出来事をどう捉えるか、どこから見るか、で人生のストーリーが変わってきます。私の場合は、「災難に遭った不幸な人」から、「守られている人」に変化して気持ちが軽くなりました。このような視点の変化は、他者との会話で促進されますので、一人で考えて負のスパイラル思考に陥りそうときは、カウンセリングにアクセスしてみてくださいね。

以下に、カウンセリングルームの予約方法を記しておきます。

【カウンセリングルームの予約方法】 利用時間：【火曜日】 14：00～18：00
まずは、メールで予約をしてください。e-mail : soudan@hokkai.ac.jp
予約の際は、①氏名 ②学籍番号 ③希望日時をお知らせください。
その際、差し支えなければ簡単な相談内容も書き添えてください。
折り返し、相談日時などについてのメールをさしあげます。

行事予定

(2025年6月7日現在)

6/15日	オープンキャンパス	9/18日	全学年履修登録訂正日
6/30日	2年次所属学科選択「志望学科届」回答期限	9/22日	後期講義開始
8/2日・3日	オープンキャンパス	9/28日	オープンキャンパス
8/4日	前期講義終了	10/15日	振替講義日(月曜日)
8/5日	夏季休業開始、前期・成績開示	10/20日～29日	履修登録科目の取消受付
	2年次所属学科発表	10/24日	総合型選抜〔I期〕会場設営日
8/5日～8日	前期・成績異議申し立て受付【オンライン】	10/26日	総合型選抜〔I期〕試験日
8/13日～16日	全学休業日	11/7日	振替講義日(月曜日)
8/27日	海外語学留学生出発【韓国】	11/15日	出席不良者後期修学指導面談
9/1日	海外語学留学生出発【中国】	11/21日	学校推薦型選抜(指定校制・公募制)・特別選抜(海外帰国生徒)会場設営日
9/6日	卒業延期者前期修学指導面談	11/23日	学校推薦型選抜(指定校制・公募制)試験日
9/9日	夏季休業終了		特別選抜(海外帰国生徒)試験日
9/10日	各センターガイダンス	12/12日	総合型選抜〔II期〕・学校推薦型選抜(併設校)会場設営日
9/11日	1年次履修相談/登録日/修学指導面談(成績不振者)	12/14日	総合型選抜〔II期〕試験日
9/11日・12日	北海道科祭準備日		学校推薦型選抜(併設校)試験日
9/12日	2年次履修相談/登録日/修学指導面談(成績不振者)	12/27日	冬季休業開始
9/13日	北海道科祭	2026/1/7日	冬季休業終了
9/16日	3年次履修相談/登録日/修学指導面談(成績不振者)	1/8日	講義再開/振替講義(月曜日)
9/17日	4年次履修相談/登録日/修学指導面談(成績不振者)		

《大学問い合わせ受付時間》 ■ 本学連絡先(代表) 011-841-1161

◇月～金 9：00～12：40 13：30～16：00 ◇土 9：00～12：40

*但し 日曜日・祝日・創立記念日(5月16日)

・夏季休業(8月中旬)・年末年始は除く

*記事の掲載内容に変更が生じる場合があります。

随時大学ホームページ (https://www.hokkai.ac.jp/) でご確認ください。

